

## NBR Study Vavi 当社は、AAALAC International またはJAPICによる認証施設です

2025年(令和7年)11月10日(営業企画部発行) 株式会社日本ルイオリサーチセンター

Nihon Bioresearch inc.

〒501-6251 岐阜県羽島市福寿町間島6丁目104番地 TEL 058-392-6222(代表)

https://www.nbr.co.ip/

▼こちらから▼

キーワード Q IBD

TNBS

デキストラン硫酸

びまん性炎症

粘膜固有層のT細胞



## デキストラン硫酸ナトリウム誘発大腸炎モデル

炎症性腸疾患(IBD)に対する新薬・新規治療法開発を視野に入れ、IBDモデルとしてデキストラン硫酸 ナトリウム(DSS)大腸炎モデルと、トリニトロベンゼンスルホン酸ナトリウム(TNBS)大腸炎モデルが広く 利用されています。

当社では両モデルが実施可能ですが、今回はDSS誘発大腸炎モデルについてご紹介します。

## 試験方法

**使用動物:**マウス C57BL/6J

誘発方法:デキストラン硫酸ナトリウム(DSS)を7日間飲水投与して、大腸炎モデルを誘発する。 群構成: Control 群、DSS 群、DSS+タクロリムス低用量群、DSS+タクロリムス高用量群

(タクロリムスはDSS投与初日から7日間、経口投与する)

## 評価・結果

評価方法: Disease Activity Index\* (体重減少、下痢、血便スコアから算出)、大腸長、病理組織学的検査 \*病気の活動性を数値化するための評価指標の総称。

**Disease Activity Index** 2.5 2.0 1.5 1.0 ## ## 0.5 0.0 2 3 4 5 6 投与日数

タクロリムスの投与により、

結果

DSS誘発大腸炎に対する 効果が認められた。

DSS+タクロリムス 低用量

control

DSS

DSS + タクロリムス 高用量

\* P<0.05. \*\* P<0.01: vs control # P<0.05, ## P<0.01: vs DSS



**VBR** Study navi